

令和元年度教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）に対する各委員からの意見

1 配布資料についての意見・疑問点

(1) 全体

- ・教育委員会がこのように多くの事業を行い、またその一つ一つについて成果と課題を明確にして細かく評価していることに敬意を表します。結果や成果を数値化することができないものも多いことから文章表記の部分を具体的に記載しているのでとてもわかりやすいと思います。
- ・教育委員会が計画を策定し、様々な施策を通して「自立・共生・創造」を目指していることがよくわかる内容となっています。これらの施策が「函館市民」及び「函館の子どもたち」にしっかりと育まれていくには、その実践をする人材の確保が重要だと思います。直接児童生徒に関わる学校教育においては尚更であると考えます。教育委員会として優秀な人材確保を第一に考え今以上に進めていくことを期待します。
- ・これだけ多くの施策に取り組み、実績を上げていることは大変素晴らしいと感じた。報告を見ると、実効性のある事業を計画し、しっかりと実施されていることがわかる。日々の各学校・団体への働きかけも十分なされていると感じる。学校教育の教育事業についての成果は、各学校の実態もある中で子供の変容を数値で表すこと自体が難しいと思うが、わかりやすく説得力のある評価点検報告がなされていると思う。
- ・「函館市教育振興基本計画」の体系に基づいていて、その事業が基本計画のどこに該当するかが分かりやすい。
- ・昨年よりコンパクトになって、とても見やすくなった。
- ・評価が◎、○、△になり、結果一覧もあるため、ひと目でわかりやすい。
- ・担当課の方の自己評価が厳しいのか、◎がとても少ないと感じた。
- ・近年、例えば給食の異物混入など、以前は目にするような記事も見られるようになりました。それだけに学校現場は日々緊張感をもって教育実践に取り組んでいるだろうと推察しています。例え小さな情報でも広く公開していくことは、親にも市民にも安心につながり、信頼につながるものと思います。

(2) 教育委員会の活動状況について

- ・会議の公開、会議録の公表、委員も公募による選出など透明性が高い。
- ・少ない人数で、しかも皆さん現役で仕事をされながら、実に数多くの会議や研修会、大会や行事等に参列・参加されていることを知り、そのご苦勞に敬意を表します。

(3) 教育委員会の施策について

全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本計画の体系」欄の基本目標は載っているが、施策等が載っていない箇所が見られました。（P65, 66, 89, 90, 122, 144, 169）ハード面の内容であることからここには出てこないようですが、ハードあつてのソフトであり、極めて重要な内容なので、何らかの掲載する工夫があっても良いのではないのでしょうか。ハード面が教育委員会の所管事項でなければ別ですが、別枠でも設定してもいいのではないのでしょうか。印象として、空白がことを軽く感じさせてしまっていないか。 ・「その他計画の位置づけ」にチェックの無い頁が多数みられました。単なるその部署における一般業務の一部としてとらえるのであれば、その
--------	---

	<p>他欄に何らかの表記をしても良いのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再掲の個所が5か所ほどありました。少々気になりました。目標内容が異なるのに同じ事業名で同じ取組、同じ評価結果となっており、少し違和感を覚えました。 ・基本計画体系における「主な取組」の内容は異なるが「事業名」は同じになり、以下再掲により全く同じ内容で示されている。例え1つの事業に対して2つの目標があってもかまわないが、結果としてはそれぞれの目標についての評価がなされるべきと考えます。特に大きな事業である「学校運営協議会」のようなものがあれば、それが持つ機能はたくさんあるだろうから、結果得られるものも様々となることは十分考えられます。
<p>P15～18</p> <p>P15～19</p> <p>P15</p> <p>P15</p> <p>P16</p> <p>P19</p> <p>P19</p>	<p>基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成</p> <p>施策 1 確かな学力を育む活動の充実</p> <p>1 授業改善の推進 (P15～19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取組、新学習指導要領に対応した主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善が進められており評価できる。 ・市教委主催による教員の資質・能力の向上研修や各校への指導助言により、子供たちの学力向上は全国学力・学習状況調査でもよい結果として現れている。現在は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が強く求められている。各校は、学校教育推進の指針に基づいた授業改善の取組を推進していくことが重要である。 ・学力向上に関して積極的に取り組んでいただき感謝いたします。アクティブ・ラーニングや社会に開かれた教育課程の実現等は保護者へのさらなる周知に努めてもらい、家庭学習の充実に役立てて頂きたいです。 ・全国学力・学習状況調査の結果について、どこにも言及されていませんが、本市の状況が決して悪い結果ではなかったように思いますし、毎年行なわれ、その結果は新聞にも報道されています。全てではなく全国・全道・全市平均比較を、例えば「基本目標 1 施策 1 確かな学力を育む教育の推進 1 授業改善の推進 (1)」に、全国学力・学習状況調査のこと触れられていますので、ここに記載しても良いのではないのでしょうか。 ・教員の方の研修の充実は継続されていると思いますが、保護者からはまだ先生の質に若干の差が有るとの声があります。さらなる向上を望みます。 ・学力向上非常勤講師の配置では、ある程度成果が得られており小学校算数TTで縮小して実施されるが、中学校においても数学・英語など習熟度指導の効果がある教科等に配置を検討すべきである。 ・2020年度より学習指導要領の改訂により学習内容が変わると聞いていますが、特に算数科において九九などの基本的な事の徹底を充実させる必要があるかと思えます。基本が出来ていないで取り残される子どもがいないよう、工夫が必要と思えます。
<p>P20～21</p>	<p>2 学習の基礎となる資質・能力を育む活動の充実 (P20～23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書と学習の関係は知る事ですがさらなる向上の工夫が必要ではないかと思えます。読書が苦手な子どもに対して例えば新聞の見出しから読んでみるとか、新聞社など企業の力を借りるなどして教科書以外の活字に触れる機会が有ればと思えます。

P20～23	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホやゲームの長時間使用，読書離れが問題となっており，学校図書館の充実（司書配置），そして読書活動の充実を継続して推進することが望ましい。
P22	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度から小学校においてプログラミング教育が必修となる事を知っている保護者は一定程度居ますが，プログラミング教育の意義や必要性を理解できている保護者は少ないのではないのでしょうか。家庭学習の観点からもプログラミング教育の必要性を保護者も理解することが必要と思います。 ・情報活用能力育成のための環境の整備は急務（2020年から小学校で必修）であり，スピード感を持って推進すべきである。
P24	<p>3 学習習慣の定着に向けた取組の推進（P24～25）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の導入に関して保護者としての情報が少なく困惑しているとの声が聞かれます。新学習指導や働き方改革等で家庭での学習の必要性が考えられる事から，学校と家庭のさらなる連携が望まれると思います。
P25	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度中学校生徒会協議会のスマホ・ゲーム等利用に関する会議に参加しましたが，素晴らしい取り組みだと思いました。その中で利用宣言やスマホ三か条も採択されたと聞いています。是非ともスマホ三か条保護者版をPTAとして策定したいと思います。
P24～25	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用宣言」は効果的であり，学力向上を図るためにも家庭学習習慣の定着させる取組を継続すべきである。
	<p>施策2 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>1 いじめの未然防止等に係る取組の推進（P26～30）</p>
P26～28	<ul style="list-style-type: none"> ・函館市いじめ防止対策審議会やいじめ等の問題について考える集会等，函館市の取り組みとしてもっと広く周知する事が必要ではないかと思えます。新聞社などに取材依頼をする事も有効ではないかと思えます。
P26～30	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの配布，教育相談体制の充実，SCの配置等の取組は効果があり評価できる。今後，こころの相談員の周知・活用推進を図る取組に努めるべきである。
P26	<ul style="list-style-type: none"> ・「函館市こころの相談員」による学校訪問による，サポートや教育相談が充実してきている。今後も周知を図り，活用を推進していただきたい。また，緊急な事案に対しての対応などからも早期解決に努めていることが報告書から読み取ることができる。
P28～29	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころの相談員」と「スクールカウンセラー」の違いをより明確に周知した方がいいと思う。おそらくスクールカウンセラーの方がより専門的だと思うが，学校関係者も保護者も，どのように使い分けをしているのかよく分かっていないようだ。
P28	<ul style="list-style-type: none"> ・取組実績（過去5年間の推移の表）について，教育相談の件数が年々増えているなかで，学校訪問数が少ないのは・・・どうしてなのでしょう。訪問を多くすることで，少しでも，いじめを未然に防ぐことができると良いと思えます。
P29	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの活用は，とても良いと思えます。
P30	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットパトロール事業は継続的に行われていると思えますが，情報量が膨大でどこまで進んでいるのかは不透明な部分があると思えます。ネットパトロールを専門的にやっている業者などを活用する事も視野に入れてみてはいかがでしょうか。

P33	<p>2 道徳教育の推進 (P31～34)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳やいじめ問題など家庭での話し合いも含めた取り組みがあるとありがたいです。
<p>P35</p> <p>P36</p> <p>P37</p>	<p>3 体験活動等の充実 (P35～37)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校で職場体験が行われており評価できる。高等学校でのものとの違いを明確にし実施することを期待する。 ※部活動支援者は、基本目標 2－2－2 で出てくるので、ここで評価するのはどうか。 ・修学旅行や宿泊研修，社会科見学などは子どもたちも楽しみにしてきてさらに学校生活の良い思い出になる活動なので今後も活動の充実に期待をします。修学旅行など金銭が発生する事があるかと思いますが，双子やそれ以上の同学年のお子さんを持つ保護者から経費の捻出は結構な負担であるとの話を聞きました。私が知るところ最大で四つ子。そのような家庭への経費補助などがあると助かる家庭もあるようです。 ・図書館や博物館，文化・芸術系の施設や取組は充実してきているので，今後も一層活用を促す取組をお願いしたい。また最近では，科学技術面における理数系・AI の学びや体験も充実してきている。体験の内容も工夫され様々なイベントも企画されており，興味関心をもつ児童も増えてきている。これは，はこだてみらい館の施設充実や大学や民間との連携の成果である。今後は，入館料やバス運賃等の補助があると，学校団体や個人利用による学習機会がより増えるのではないかと思います。 ・部活動地域支援者の導入は教員の負担軽減において成果があると思います。一方で部活動支援者が部活動での本来の意義や取り組みを十分理解して活動して頂かないと勝利至上主義に走らないか心配の声も一部ではあるようです。 ・部活動地域支援者の活用について，市内全体が生徒数の減少に伴い職員数も減っている現状，部活動の指導者の確保が大変難しくなっています。そのような状況の中，函館市が他市町村に先駆けてこのような制度を導入し環境を整えてくれたことは画期的であり非常にありがたく現場としては大歓迎です。また保護者からも感謝されています。今後もこの現状は進んで行くと思われるので予算を拡充し規模を拡大してくれることを期待しています。
<p>P38～42</p> <p>P39</p>	<p>施策 3 健やかな体を育む教育の推進</p> <p>1 学校保健・学校体育の充実 (P38～42)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣（朝食摂取・運動習慣）や体力に課題があり，保護者（市 P 連等）と連携し，改善へ向けての取組に努めるべきである。 ・健康教育は，学校はもとより家庭での指導も重要な位置を持つことと思います。学校と家庭が協働・協力して望ましい生活習慣を確立する事が大事だと思います。 ・朝食摂取率と運動習慣についてはここ数年ではなく，かなり前から問題になっていること。学校では「ほけんだより」や掲示物，授業などで児童生徒や保護者に朝食の大切さを伝えている。生活習慣は保護者の影響を受けることが大きいと思われるため，家庭への働きかけがより必要だと思う。 ・また，今の子どもたちはいずれ大人になり，親になっていくため，望ま

P47	<p>と感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー対策の推進について、アレルギー対応食（除去食・代替食）の提供は主要7品目に限って行っているが、児童生徒がアレルギー反応を起こす食品数は非常に多く、今後この対応する品目が増えていくことになると栄養教諭・調理員をはじめ現場が益々大変になっていくのではないかと危惧しています。
P48	<p>3 安全に関する教育の推進（P48～50）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育は学校だけの取り組みではなく、地域と家庭を巻き込んだ地域一体型の教育として取り組むべきと思います。コミュニティ・スクールも導入されましたのでそこを活用して地域安全教育の確立と各機関や家庭との連携を図る事が必要と思います。 ・事業概要のところ、「健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培う」とあるが、事業の内容を見ても「幸福な生活」というのがどう結びつくのかわからなかった。
P49	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の減少により学校の統合が進み、校区が広くなり通学路の安全確保が急務と思います。毎日の登下校の見守りは難しいですが、保護者のちょっとした気配りでの見守りを推進しても良いと思います。特に冬場の雪道での安全確保は必要と思いますが、各地域に除雪機を配置して頂くなどの対策はとても有難いです。
P51～52	<p>施策4 幼児教育の充実</p> <p>1 幼児教育の質の向上（P51～52）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談等、保護者の支援に関する取組の充実により一層努めるべきである。 ・はこだて幼稚園の閉園があり市立の幼稚園の減少が見られる事もあり、今後私立幼稚園と連携し幼児期からの家庭教育や子育て支援の充実を図る事も必要となるのではないかと思います。
	<p>2 小学校教育との円滑な接続（P53）</p>
P54～58	<p>施策5 多様なニーズに対応した取組の充実</p> <p>1 特別支援教育の充実（P54～58）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実のためにリーフレットの配布や各校に特別支援教育支援員を配置するなど、高く評価できる。また、継続的な支援の充実、校内体制の充実のためには、専門性を身に付けた教員の配置が必要と考える。
P55	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実について、学校教育における児童生徒・保護者・教員・関係機関等の連携については、市教委が積極的な体制整備を進めており充実が図られていると思います。また評価も適切と思います。ただ、課題となるのはいずれ社会に出ていくための体験や訓練といったものが学校現場では限られており十分には適応できない現状である。その部分については市教委（学校教育部・生涯学習部）が独自に行事やイベントを企画するなどして充実を図っていく必要があるのではないかと考えます。
P59～62	<p>2 不登校児童生徒等への支援（P59～62）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室や相談指導学級を設置し対応していることは評価できる。

<p>P59</p> <p>P60</p> <p>P61</p>	<p>不登校傾向児童生徒が増加しており、効果的な相談窓口の周知の取組を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒に対しての学校からの聞き取りは限界があるように思います。スクールソーシャルワーカーなどの機関からの聞き取りを導入するなど学校に対する不安や不満など学校には言いにくいことを聞いてくれるような取り組みも必要ではないでしょうか。家庭は個人、学校は組織というパワーバランスが生まれては聞きたい事も聞き出せない事が起きる可能性があるため、各機関との連携が必要と考えます。 「適応指導教室、相談指導学級」はとてもいい事業だと思う。不登校児童生徒が増加していることや、現在入級できる人数に限りがあって入れない子もいる状態であれば、もっと数を増やせたらいいと思う。適切な指導により、登校復帰できる児童や基礎学力の定着が図られれば、不登校児童生徒の可能性を広げることができ、将来のためにとっても大切だと思う。 不登校児童生徒の保護者の心配事は社会に適応できるだろうか、他人とどう接する事が出来るかなど子どもの将来に関わる事が挙げられます。フリースクールとの連携はそれらの不安を軽減することに寄与していると思いますので、今後もさらなる連携を強化していただきたいと思います。
<p>P64</p>	<p>3 就園・就学に対する支援 (P63~64)</p> <ul style="list-style-type: none"> P T Aが主体となりアフタースクールを設置している学校が多く見受けられますが、やはり課題は人材の確保が難しいと聞く機会が多いです。もう少し広く周知する事も必要と考えます。
<p>P68~73</p>	<p>基本目標 2 地域とともにある学校づくりの推進</p> <p>施策 1 家庭・地域との連携・協働の推進 (P68~73)</p> <p>1 家庭・地域と一体となった学校運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に7割の小・中学校に学校運営協議会が設置され、令和元年度においてはすべての幼・小・中・高等学校に設置されるということは非常に高く評価できる。さらに地域との連携が図れるよう教育委員会の指導・助言を期待する。 小学校教育との円滑な接続がなかなか実現できないでいるので、コミュニティ・スクールの拡大を望みます。 本年度コミュニティ・スクールが導入され、何年か後に導入の成果や課題、解決策などの検討は考えているのでしょうか。
<p>P74~75</p> <p>P76</p>	<p>施策 2 学校における指導体制などの充実 (P74~77)</p> <p>1 校務運営および指導体制の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営指導訪問や学校教育指導訪問により、学校経営の充実および教育活動の充実が図られており評価できる。 高等学校においては、80科目を開講するなど単位制の特色を活かした教育課程を編成・実施しており評価できる。 <p>※函館学は、基本目標3-1-1で出てきており、ここで評価するのはどうか。</p>

P78～81	<p>2 業務改善に向けた取組の推進 (P78～81)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会が主導し、全校が足並みをそろえて業務改善にあたり成果を出しており評価できる。 ・学校における業務改善の取組の推進について、北海道に先駆けて取組をスタートさせ、学校現場と市教委が連携しながら進め、着実に成果をあげていることは素晴らしいと思います。何より市教委がイニシャチブをとり、学校現場と双方向で進捗具合を見ながら進められたことは取り組みをスタートさせる前よりも教職員の意識変革に確実に繋がっています。数値で見ると満足できる段階ではないかもしれませんが、その成果は○ではなく◎でもよいと感じています。
P80	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担軽減を考えるのなら部活動地域支援者ではなく、部活動指導員の配置の検討を進めるべきである。
P82～84	<p>3 教職員の資質能力の向上 (P82～84)</p>
P85～88	<p>施策3 学校間の連携・接続</p> <p>1 学校間の縦の連携・接続 (P85～87)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育に向けた取組は、学校運営協議会とあわせて地域と連携して推進すべきである。
	<p>2 学校間の横の連携 (P88)</p>
P90	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に良い取り組みだと思います。ある講演会で子どもが本好きになるにはどうすれば良いか？という質問に対して講演者は「まず親が本好きになるべき」と言っていたのが非常に印象的でした。是非とも小学校でも中学校でもこの取り組みを導入していただき親子で学校図書館を訪れて一緒に本を選び読みお互いに感想を話すと言った事例があると嬉しいですね。
P92	<p>基本目標3 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成</p> <p>施策1 函館への愛着や誇りを育む教育の推進</p> <p>1 地域資源を活用した教育活動の推進 (P91～92)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かした取組がなされるとともに 40 以上の講座を設け地域理解に努めており、高く評価できる。講演や講話がイベント型にならず、系統立てて実施されるよう工夫し、より一層の充実を期待する。
P93	<p>2 地域に貢献する教育活動の推進 (P93～94)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティア活動への参加は地域の活性化には欠かせません。ボランティア活動を通じて自分の為ではなく、人の為に活動する事の素晴らしさや心の充実を感じてもらえればと思います。
P93-94	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生たちは、子供たちの成長という大仕事に関して、責任を負いすぎていると思います。地域社会が衰退したことによって教育が学校に集中するようになったと感じます。しかしながら、子供たちが主に所属する場所が学校であるので、郷土愛を育むことも学校を通じて行わざるを得ないと思います。 ・今後の課題として、郷土愛の部分、例えば社会の何時間、道徳の何時間を地域の人たちに委ねてはどうかと思います。人選には苦勞するかも知れませんが、人と人の繋がることと営みを共有することで、子供の心が

	動かされ、郷土愛が醸成される一助になるのではないかと思いますし、長期的には先生たちの負担軽減にもつながるのではないかと思います。
P95～97	施策2 未来へ飛躍する力を育む教育の推進 1 豊かな国際感覚を育む教育活動の推進 (P95～97) <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で国際理解教育の推進のため地域民間講師の招聘や海外留学事業等を行っており、函館学とともにローカル・グローバル両面での取組は評価できる
P97	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな国際感覚を育むためには語学だけではなく、実際に行って、その文化にふれることは何よりも効果的だと思うので、本当に素晴らしい事業だと思う。
P98～100	2 キャリア教育の推進 (P98～100) <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習や上級学校説明会などキャリア発達段階に応じた取組を行っており、評価できる。
P101～102	3 科学技術への関心を高める教育活動の推進 (P101～102) <ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質・能力の向上が中心となった取組である。関心を高めるだけではなく、児童・生徒がどのような力を身に付けるのかの取組に改善すべきである。
	基本目標4 生きがいを創り出す生涯学習の推進 施策1 生涯学習活動の促進 1 市民の主体的な学習活動の促進 (P103～116)
P103	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理が出来、市民が使いやすい状態が保てているため、図書館や公民館は利用人数が増えている。引き続き、補修などを進めて欲しい。
P106	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴ってなのか、利用者が減っていることは残念だが、取組み実績を見ると創意工夫が感じられる。深い学びを求める方にはとても必要な場所であるため、今後より一層の広報活動を充実させ利用者を増やしていきたい。
P106～109	<ul style="list-style-type: none"> ・学習セミナーの開催は、学びの場に加え、人々との交流のきっかけとなる場となるので、少子化、高齢化が進む今後もとても重要だと思います。また、ほとんどが共働き世帯の今、親と子が一緒に参加できるセミナーはとても喜ばれていると感じます。限られた休日の時間を充実して共に過ごせる（料理教室などと読み聞かせを合わせた、過去に福島町で実施しました）ことが理由と思われます。
P111	<ul style="list-style-type: none"> ・「ガイドブック」「プチまなびっと」などをつくり、広報活動に力を入れていることが分かりました。身近に感じられる取組みがすばらしい。
P112	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者の学びの場、また交流の場としてとても必要とされていることがうかがえる。介護予防にも繋がっていると考えられるので、参加者について、介護予防を視点としたアンケートや分析を行い広報活動に生かしていくのはいかがでしょうか。また、大学で学んだ事を他の場所（学校・高齢者施設・子育てサロンなど）で生かし「社会に役立てる」ことを目標にしていくのもいいのではないかと。
P116	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の夜間開放という事もあり親と子が共に過ごし文化芸術に触れる貴重な機会だと思います。 ・カルチャーナイトはわが家でもとても好きなイベントで、主体的な活動になっていると思う。毎年参加を楽しみにしている方も多いため、「評

	<p>価」にあるように新規企画があったらいいと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道や琴など、伝統を伝えることも大切ですが、アウトリーチと内容がダブっているようにも感じる。本来の目的を考え、民間企業やNPOなどの協力を得て開催して欲しい
P117	<p>2 学びの成果を生かす活動の促進 (P117)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数が伸びていないが、世代交代できているのか分からない。今後につなげるためにも、新しい人材の発掘とコーディネーターの養成が急務と思われる。
P119	<p>施策2 社会教育活動の推進</p> <p>1 社会教育施設等における学習機会の充実 (P118~120)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の子どもたちにとって、とても有意義な取り組みであると感じる。放課後デイサービス等の急激増加にともない、今後は民間企業との連携を考えてみてはどうか。
P121	<p>2 家庭・地域における社会教育活動の推進 (P121)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学びを推進しようとしているところなので各種セミナーの開催はありがたい事です。また過去5年間の推移を見ても参加者数が昨年度非常に増えている事から学校・PTA・地域団体の関心の高さが伺えます。函館市PTA連合会としても各単Pへの情報提供や市P連の事業としても活用したいと思います。 ・時代のニーズに合っているのので、参加者も増え、求められていると感じる。より効果的な講師をむかえ充実させてほしい。また必要とする全ての方に情報を届けてほしい。
	<p>基本目標5 心の豊かさを育む文化芸術の振興</p> <p>施策1 文化芸術活動の促進・支援</p> <p>1 市民の主体的な文化芸術活動の充実 (P124~126)</p>
P128	<p>2 文化芸術に接する機会の充実 (P127~132)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に参加できることや、グループの目標となっている。広報活動も充実している。
P132	<ul style="list-style-type: none"> ・主な取組内容が今後さらに充実し、鑑賞や体験する機会が増えるといいと思います。すばらしい文化芸術と触れることで、新たな進路を考えられたり、何より“心の豊かさ”が育まれると思います。 ・とても素晴らしい取組みだと思う。参加する学校が限られているようだが、全ての子どもたちに体験の機会を作れるよう工夫して欲しい。
P133	<p>3 文化芸術活動を担う人材の育成 (P133~134)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術活動としてこの部門の中に「舞踊」が入っていないのが残念に思う。市民文化祭などでも多くの児童生徒が舞踊を披露するなど、日々一生懸命に取り組んでいるため、舞踊部門をぜひ事業に入れてほしい。
P134	<ul style="list-style-type: none"> ・函館の文化芸術の先導者として、大いに期待をする。多忙な業務の中参加も難しいようだが、未来への投資と考え、より新しいものを求めてスキルアップに役立てて欲しい。

	<p>施策2 文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承</p> <p>1 文化遺産の保存・活用 (P135~142)</p>
	<p>2 伝統文化の継承 (P143)</p>
P152	<p>基本目標6 健やかな心身を育むスポーツの振興</p> <p>施策1 スポーツの振興</p> <p>1 子どものスポーツ機会の充実 (P145~152)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の影響で団体スポーツの存続が厳しくなっている実態がある。指導者不足が大きく関係していると思われる。少年団登録状況の登録人数については、児童数が年々減少しているため、分母の児童数にも違いがある。全体の児童数を分母とした割合で表すと推移をより比較しやすいかもしれない。個人的には、市教委のPR活動や団体への支援により、スポーツ少年団登録の人数減少は、緩やかなものであると感じている。
P154	<p>2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実 (P153~165)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館マラソンの近年の充実は成果として現れていると思います。
P155	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ＝競技と言った面が前面に出るとなかなか取っ掛かりが掴めない市民もいるのではないか。スポーツ＝健康増進としての軽微な運動の促進、例えばウォーキングの推奨や年に1~2回位の函館山登山など、気軽に出来る事も多く広報して広く案内してみてもどうか。
P160	<ul style="list-style-type: none"> ・戸井地域の地区玉入れ大会は非常に興味のある企画ですね。戸井地区以外の参加はできるのでしょうか？参加してみたいと思います。
P165	<ul style="list-style-type: none"> ・全道大会や全国大会を函館に誘致し大会等を観戦またはボランティアスタッフとして参画することにより競技参加意欲の向上につながると考えます。 ・学校の統廃合により廃校になった学校のグラウンドなどを函館市内のスポーツクラブやチームに貸すことは出来ないか。課題はあると思う。施設管理者の選定や施設整備など。
P167	<p>3 競技スポーツの促進 (P166~168)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロ野球やJ1サッカーなどの公式戦が函館で行われたいのは寂しい。プロイベントではなく公式戦を開催できると競技スポーツへの関心が更に高まるのではないか。また近年ではラグビーの競技人気が高まっており根崎グラウンドを利用したラグビーの大会や合宿誘致にも尽力していただけると有難い。
	<p>※ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館出身の芸術家（画家・能楽師・音楽家など）が多数存在するが、故郷で公演を行えるよう支援する仕組みを作ってほしい。市民の誇りであり、子どもたちの目標にもなると思う。 ・広報活動については分かりやすく、魅力を感じる媒体（インターネットやフライヤー）が必要である。函館はイベントがとても多く、主催者や目的がわかりにくいと感じることが多い。情報の不足により参加出来なかったということは避けたいと思う。

2 点検評価の見直しに関する意見等

- ・ 昨年度に比べ、取組内容・成果と課題が分かりやすく示されている。また、今年度の取組が明確に示されている。再掲が数件あるので改善が必要である。
- ・ 今回様々な面で改訂が行われ、非常に見やすくわかりやすくなりました。また、PDCAサイクルの構造も分かりやすいものとなっており、最後の「評価」・「今年度の状況」の項目は次年度への期待を抱かせるようなつくり、内容となっており、大変いいと思います。
- ・ 見出し代わりとなっている冒頭の「点検・評価結果一覧」に評価の◎○△が記載され、見てみようという気持ちになり、非常に使いやすさを感じます。
- ・ 項目数が169項目と多いのですが、それだけ詳細に見ていることが窺われます。またそれらが系統化された端的な視点から見ようとしているので、よりわかりやすいものとなっているように思います。
- ・ 取組実績に過去5年間の推移が載せられていることから、これまでの状況がよくわかり、そこから今後の方向性が見えてくると同時に、信頼感や期待感をいうものも湧いてくるものを感じます。
- ・ 分かりやすいということは、逆にまずいところも良く見えるようになります。特に数値は気を付けなければなりません。例えば、子どもの数は5年前と現在では大幅に下がっています。高齢者の数も変化しています。そのあたりのことを見る人には理解して見ていただきたいものなので、注意書きのようなものが必要ではないかと思いました。例えば、実際の数値は横ばいでも、割合で比較すると高くなるということは当然出てきます。また同じ50でも5年の進歩、進化した内容の違う50であるなど。
- ・ 今回の評価表は単純明快であるため、他との比較もしやすく、書き込み状況など見ただけで比較されたり、文書表現を比較されたりといったことも出てくることが考えられます。例えば、あまりにも抽象的な表現の文章は疑問を抱かせるものなる可能性があります。
- ・ 教育はそれ自体精神的な活動であるため、元々数値で表すのが難しいものが多く、説得力を持った表現に苦労します。例えばP36の「取組実績」などはあまりにも抽象的過ぎて、教育関係者であればどんなことをしたか想像できるが、そうでない人には極めて難しいと思います。活用学校数を示すなどで説得力を持たせる工夫が必要かと思います。
- ・ たくさんの分野の事業がありますので、できればもう少し提出期日まで期間があると助かります。
- ・ 昨年度の点検評価部会の資料から、委員自身の経験から、一事業が縮小されることが残念というコメントがありました。（現在の事情もあると思いますが）すばらしい実体験から得られた生の声をもっと出していいように思えました。
- ・ 点検評価の見直しの意見とは違うかもしれませんが、各行事の広報紙やパンフレットも同時に配布していただくと、意見を出しやすいと思います。

3 質問事項等（再掲）

- (1) いじめの未然防止に係る教育相談の充実（P28 教育指導課）
取組実績（過去5年間の推移の表）について、教育相談の件数が年々増えているなかで、学校訪問数が少ないのは・・・どうしてなのでしょう。訪問を多くすることで、少しでも、いじめを未然に防ぐことができると良いと思います。
- (2) 健康教育の推進（P39 教育指導課）
評価が△で「成果が不十分で、改善の必要がある」となっているが、今年度の状況が「継続」のまま「改善」になっていないのは残念だと思う。「継続」の内容に、「地域や家庭との連携について検討する」とあるが、具体的にどのようなことができるのか知りたい。
- (3) 安全教育の推進（P48 教育指導課）
事業概要のところ、「健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培う」とあるが、事業の内容を見ても「幸福な生活」というのがどう結びつくのかわからなかった。
- (4) コミュニティ・スクールの拡大・推進（P68 学校再編・地域連携課）
本年度コミュニティ・スクールが導入され、何年か後に導入の成果や課題、解決策などの検討は考えているのでしょうか。
- (5) 点検評価シートの見出し部分の空欄について（P65 ほか 教育政策課）
- ・「基本計画の体系」欄の基本目標は載っているが、施策等が載っていない箇所が見られました。ハード面の内容であることからここには出てこないようですが、ハードあつてのソフトであり、極めて重要な内容なので、何らかの掲載する工夫があっても良いのではないのでしょうか。ハード面が教育委員会の所管事項でなければ別ですが、別枠でも設定してもいいのではないのでしょうか。印象として、空白がことを軽く感じさせてしまっていないか。
 - ・「その他計画の位置づけ」にチェックの無い頁が多数みられました。単なるその部署における一般業務の一部としてとらえるのであれば、その他欄に何らかの表記をしても良いのではないのでしょうか。
- (6) 点検評価シートの再掲について（P72 ほか 教育政策課）
- ・再掲の個所が5か所ほどありました。少々気になりました。目標内容が異なるのに同じ事業名で同じ取組、同じ評価結果となっており、少し違和感を覚えました。
 - ・基本計画体系における「主な取組」の内容は異なるが「事業名」は同じになり、以下再掲により全く同じ内容で示されている。例え1つの事業に対して2つの目標があってもかまわないが、結果としてはそれぞれの目標についての評価がなされるべきと考えます。 など